



人気を博した少女マンガの多くは、かわいいヒロインがイケメン王子様と出会い、紆余曲折を経てハッピーエンドを迎えるシンデレラストーリーが定番でした

歴史深いジャンルである少女マンガに目を向けると、その始まりは1950年代から

マンガ・アニメは時代とともに変化——

とくしゅう

マンガ・アニメと「ジェンダー」「ルッキズム」

今回はそんな身近なコンテンツであるマンガ・アニメから「ジェンダー」「ルッキズム」について取り上げます

2022年の今、幅広いジャンルのマンガ・アニメが存在し、性別年代の壁を越えて愛されています

しかし、90年代に入ると自ら幸せをつかみとる自立したヒロインが登場し、多くの女性の支持を集めました

※ジェンダー…社会的・文化的に形成された性差のこと。ルッキズム…容姿や身体的特徴などで人を判断すること。またはそれに基づく偏見や差別。

—弁護士への進んだきっかけは?どのような案件に携わっていますか?

少しでも悩んでいる方や困っている方のお役に立ちたいと思ったのがきっかけです。

市民の皆様が関わるようなトラブル、例えば交通事故や賃貸借、売買の問題、あるいは近隣紛争といった民事事件。家事事件でいうと、離婚、遺産分割、成年後見など案件は幅広いです。

—DVに関わる案件もあると聞きましたが、DV被害者と接するとき心がけていることはありますか。

DVを経験された被害者の方というのは、打ちひしがれていたり、自分自身を見失っていたりします。そういう方に自分自身を取り戻し、再び自分の人生の主人公になってもらうための水先案内人になれるよう心がけています。

自分の人生の主人公になるためには自分が決めるということが必要です。ご本人が示す方向にはどういうルートがあるか、それぞれのメリットデメリットに関する情報を具体的にわかりやすく提供して、自己決定してもらいます。決して今の辛い状況がずっと続く訳ではない、いつかはこの暗闇から抜け出せるというメッセージを常に発して、元気になっていただくようにしています。

—社会活動にも積極的に参加されていますが、社会活動に参加されたきっかけは?

最初の社会活動は福祉オンブズマンでした。平成8年に初めて障害者施設を訪問し、利用者の姿に衝撃を受けたことがきっかけとなり、毎月1回高齢者・障害者施設を訪問し、苦情・要望を汲み上げる福祉オンブズマンの活動を25年以上続けています。



*輝き人 -kagayaki-bito-

現在は人権擁護委員、青森市の子どもの権利擁護委員、裁判所の裁判所の調停委員なども務めています。

—なぜ社会活動を続けているのですか?

子ども、高齢者、障がい者、DV被害者の権利問題などいずれにしても非常に権利主張が弱いという共通点があります。「義によって助太刀いたす」という言葉がありますが、力が弱い方々には支援が必要だと思い、活動しています。支援に携わることで自分の視野が広がりますし、関わった方が喜んでくれることが嬉しい。なぜ活動を続けるのかと問われると、とても勉強になるから、面白いから、楽しいから。答えとしてはそうなりますね。

—弁護士業務に加えて社会活動もされるというのは、大変ではないですか?

土日の休みも社会活動に充てていますが、休みというのは好きな事をする日、全然苦にはならないです。私にとってはある種の息抜きというか、逆にエネルギーをいただく、皆さんとお会いしたり話を聞いたりして新たな知見を広げる、面白く、楽しい時間です。仕事ばかりだとつまらないですから。

—今後の展望を教えてください

子どもたちは私たちの未来です、もっと子どもたちの権利が守られるように活動していきたいです。また、男女共同参画についても日本は後進国です。議員の男女の比率からしても女性経営者の比率からしても、すごく遅れている。これは日本の活力を削いでいると思います。色々な人が色々な視点で活躍できない所からは豊かな発想というのは出てこないのではないのでしょうか。子どもや高齢者、障がい者の目、DV被害者もそうですが、マイノリティから見た社会の視点というのはすごく大事、重要なことを指摘していると思います。マイノリティの視点をもち、大切にするために社会活動を続けていきたいです。

社会活動の時間は新たな知見を広げる、面白く、楽しい時間

沼田徹さん

弁護士。平成6年に青森市にて沼田法律事務所を開業。弁護士業務のほか青森県運営適正化委員会委員長、青森県人権擁護委員連合会会長、青森県調停協会連合会会長、青森労働局紛争調整委員会会長など多くの要職も務める。

アンジュール VIEW

LGBTQ&SDGs (持続可能な開発目標)

最近よく耳にするようになったSDGs。国連で採択された「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標のことです。SDGsには「ジェンダー平等の実現」といった17の目標がありますが、LGBTQに関して言及する目標はありません。国連加盟国の中には、個人の同意に基づく同性愛を差別的な法律で違法と定めている国があることが理由の一つです。

しかし、このことについて元国連事務総長のパン・ギムン氏は「この問題は、新たな開発アジェンダのすべての項目を「分野横断的に」貫いている問題であり、『誰も置き去りにしない』というSDGsのモットーに既に含まれています。誰もが参加すべきであり、民族や性的指向、性別、出生、貧しいか金持ちかは関係ない

のです。新しいアジェンダには差別などなく人間を中心にといったビジョンなのです。」と述べています。

LGBTQについて直接言及はされていないものの、SDGsを達成するためにはLGBTQを含め、あらゆる差別をなくすことが必要であると言えます。

<発行>
青森市 市民部 人権男女共同参画課
〒030-0801 青森市新町1-3-7
☎017(734)2296 FAX017(734)5765
<編集スタッフ>
齋藤純子(ライター)、田中真紀(男女共同参画プラザ「カダール」)
※転載ご希望の場合はご連絡ください。

マンガ・アニメと「ジェンダー」「ルッキズム」

マンガ・アニメに
おける「ジェンダー」

私たちの心を掴んで離さないマンガ・アニメと「ジェンダー」にどんな関係があるのでしょうか。

「ジェンダー」とは社会的・文化的に形成された性差のこと。例えば「外で働くのは男性で、家のことをするのは女性」と無意識に決めている女性と男性の違いのことです。「ジェンダー」は、男性・女性の服装や髪形、言葉遣い、職業選択、家庭や職場での役割や責任の分担、さらに心の在り方や、意識、考え方、コミュニケーションにまで反映されます。

マンガ・アニメの、例えば登場人物の職業、性格や容姿、男性と女性の関係性など、ストーリーの背景として何気なく描かれていることが、男性・女性の「こうあるべき」姿を作り上げてはいないでしょうか。

与えられた情報が
好みを形作る

「テレビ・アニメ番組にあらわれた女性像・男性像の分析」藤田由美子、1996年では、調査対象としたテレビ・アニメ番組において、大人の男性は職業を持つ一方、女性は主婦または母親として登場することが多いと指摘しています。思い出してみると『ドラえもん』『サザエさん』『クレヨンしんちゃん』もお父さんは会社へ

マンガ・アニメに
おける「ルッキズム」

マンガ・アニメの登場人物、とくにストーリーの中心となる登場人物は容姿端麗なことが多いです。知らず知らずのうちに「かわいい」「かっこいい」「魅力的なもの」はどんなルックスか、というルックスを手に入れると得をする、という思考を学び取っているかもしれません。

戦闘もののマンガ・アニメの場合、登場人物に必要なのは強さや闘争心なのに、女性の登場人物には見た目の美しさと妖艶な体型、露出度の高い衣装といった異性の目を惹きつける特徴が付け加えられます。

マンガ・アニメ以外の日常においても「美人すぎる○○」「女子力」といった言葉をよく目にします。このように本来は個人の能力で評価すべき場面なのに、容姿や外見によって評価し、差別や優遇することを「ルッキズム」と言います。「ルッキズム」にも注目してみるとマンガ・アニメを別な方向から見るができるかもしれません。

マンガ・アニメに潜む「ルッキズム」について少女マンガの研究者として知られるトミヤマユキコさんにお話を伺いました。



トミヤマユキコさん
東北芸術工科大学の専任講師

ライターとして日本の文学・マンガなどについて書きつつ、大学では日本の少女マンガやサブカルチャーについての研究、および、編集・ライティング関連の講義を行っている。

サイイク女子たちによる
名作マンガは
世間では目立たない

わたしたちの世界は、視覚が優位性を持つ世界です。生きていく上で視覚に頼らざるを得ない場面がたくさんあります。娯楽に関する作品はたくさん存在していること。にわかつたのは、サイイク女子をヒロインとする作品はちゃんとしていないこと。しかも「美人は得てサイイクは損」という話ばかりでもないのです。そこには多様な価値観が描かれており、読者を多様な生き方へと導いてくれます。しかし、悲しいかな、サイイク女子たちによる名作マンガの数々は、なぜだか世間では目立たないのです。美しくないものは不可視の領域に追いやられる。これもまたひとつのルッキズムなのかもしれません。

他者との対話で
気づきを増やす

娯楽の恐ろしいところは、そこに埋め込まれている価値観をそれと気づかず内面化

行き、お母さんは専業主婦です。また、この調査では、女の子の登場人物のほとんど全員がロングヘアースカートを身に付けて主人公の男の子を陰で助けたり、かばったりするが、好きな男の子のために何かしてあげていると指摘。国民的アニメと言われる『名探偵コナン』『ポケットモンスター』『ドラゴンボール』等を見てみると、女性の登場人物は主人公との恋愛対象や男性の登場人物から守られる存在として描かれ、かわいいキャラクターが多いように思えます。

幼い子どもであれば、マンガ・アニメから受ける影響はさらに大きいのではないのでしょうか。

「テレビアニメが子どものジェンダー意識の形成に及ぼす影響」藤村久美子、伊藤めぐみ、2004年では、テレビアニメシリーズの多くが男子向け、女子向けに限定して作られており、女子の主人公たちの衣服、髪型、しぐさ等にかわいさを、男子の主人公たちに強さとリーダーシップという特徴を与えていると指摘しています。

「プリキュア」シリーズなどの女子向けアニメでは、変身シーンでメイクアップやドレスアップすることが女性のパワーとして描かれています。そんな主人公に憧れて、アニメのグッズをねだり、友だちと○○っこを楽しんだという方も多いのではないのでしょうか。

マンガ・アニメといった身近なものから、「女なら、男ならこうあるべき」を学び取り、無意識のうちに自分にも周囲の人にも「こうあるべき」を求めてしまっていると思いませんか。

してしまうところでは、「弱い者いじめはよくない」といった価値観が内面化されるなら大歓迎ですが、「あらゆる女は美しくあろうと努力すべき」とか「弱そうな男はバカにされてしまうが」「かいついた価値観が内面化されてしまうと厄介です。これを避けるためには、クリエイターが自己検閲をして、よりよい作品を生み出すことも大事ですが、何よりわたしたちひとりひとりが「これって現実の世界では絶対ダメなやつだ」「真に受けないようにしなくちゃ」と思えるようになることが大事です。

そういった気づきは、他者との対話によって増やせます。たとえば、わたしは学生の絵を見て「なんでこの女戦士はお尻丸出しなの？ 転んだら痛いよね？」と聞いたことがありますが。すると学生は、ハッと気づいたかのように「なんででしょう……なんとなく描いちゃってました」と言いました。ひとの見え方や美醜に関する感覚は、知らず知らずのうち自身についてしまうものの、対話によって解除することも可能です。ルッキズムへの関心が高まるいまは、対話のチャンスでもあります。誰かとお喋りを通じて、自分が内面化しているルッキズムを発見してみるのもいいんじゃないでしょうか。



『少女マンガのサイイク女子考』
トミヤマユキコ／左右社

少女マンガの「サイイクヒロイン」は、こんなにたくさん存在していた！大御所から若手、知る人ぞ知る伝説的作家まで、全26作品を収録した少女マンガ×ルッキズムエッセイ。



©Tsumuji Yoshimura/SQUARE ENIX

『性別「モナリザ」の君へ。』
吉村旋/スクウェア・エニックス
人間がなりたい性別を選べる世界で、性別がないまま18歳になった主人公の恋愛模様を描く少年マンガ。「主人公が性別にとらわれることなく、人を好きになる過程が描かれている」(30代男性)



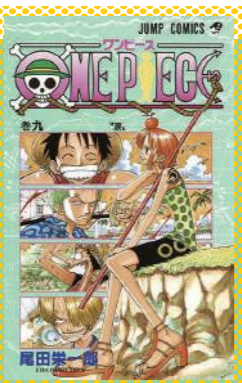
『呪術廻戦』
芥見下々/集英社

人間の負の感情から生まれる化け物である「呪霊」を呪術師が呪術を用いて倒していくバトルマンガ。「釘崎野薔薇というキャラクターの「私は綺麗にオシャレしている私が大好きだ!! 強くあろうとする私が大好きだ!! 私は「釘崎野薔薇」なんだよ」というセリフが好き」(20代女性)



『さよなら私のクラマー』
新川直司/講談社

弱小高校女子サッカー部でチームメイトとなった三人の少女達の戦いと葛藤を描く青春スポーツマンガ。「青春群像劇であると同時に、女子スポーツを取り巻く問題を提起しているところが良い」(30代男性)



『ONEPIECE』
尾田栄一郎/集英社

海賊王を夢見る主人公の少年が信頼できる仲間を集めて冒険に出る物語を描いた少年マンガ。「ナミというキャラクターが「抵抗しないのがかわいいなら願ひ下げよ!!」と言うシーンが好き」(30代女性)

青森市の10代～60代に聞いたおすすめマンガ・アニメを紹介

COMICS

「ジェンダー」「ルッキズム」の視点からマンガ・アニメを楽しんでみませんか？